

テレワークだから実現できる！オホーツク北見で2地域ライフ推進プロジェクト



北見市の強み(テレワーク推進)を活かし二地域居住を推進するため、地域企業・団体と協力して受入体制を確立

既存の空き家や空きオフィスを活用し、都市部の企業や個人・家族が中長期滞在可能な環境を整備

親がテレワーク中、子どもが北海道生活や自然を体験できるよう、こども園の手配や送迎など「生活環境」を支援

テレワークによる就業時間外に、地域住民との交流や地域産業(農業)の体験ができるよう、マッチング環境を整備

都市部の企業と連携し、テレワーク可能な人材を誘客する流れを構築。持続的かつ横展開可能なモデルを提案



地域課題の解決

- 空き家や空き店舗の活用
- 地域産業の担い手不足解消

二地域居住へつながる長期滞在の促進

- 生活体験による、移住の不安解消
- 地域住民や地域産業との関係強化

持続性のある横展開可能なモデルの構築

- 都市部でのテレワーカーの誘致
- 低コストで持続可能な運用ノウハウ

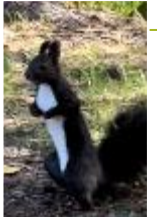
北見市における二地域居住推進のメリットと課題



施策面

- 早期から企業テレワークを推進
- 誘致企業によるワークスペース運営
- IT企業をターゲットとした企業誘致

テレワークに関する施設や地域のサポートで、「働く環境」を支援



観光面

- 日帰り圏内に国立公園が4つ
- 海の幸から焼肉まで充実した食
- 四季折々の大自然

本州では味わえない自然やさまざまな体験で、充実した週末



環境面

- 夏の暑さや花粉症からの退避
- 最適サイズの生活圏(10万人規模)
- 冬の寒さ(二地域居住で解決可能)

猛暑、花粉症、満員電車や渋滞など、都会ストレスからの解放



生活面

- 地域最大の医療機関(北見赤十字病院)
- こども園から専門学校・大学まで
- 商業施設・図書館・スポーツ施設等充実

医療と教育の安心。「広域保育」による、こども園への受け入れ実績



交通面

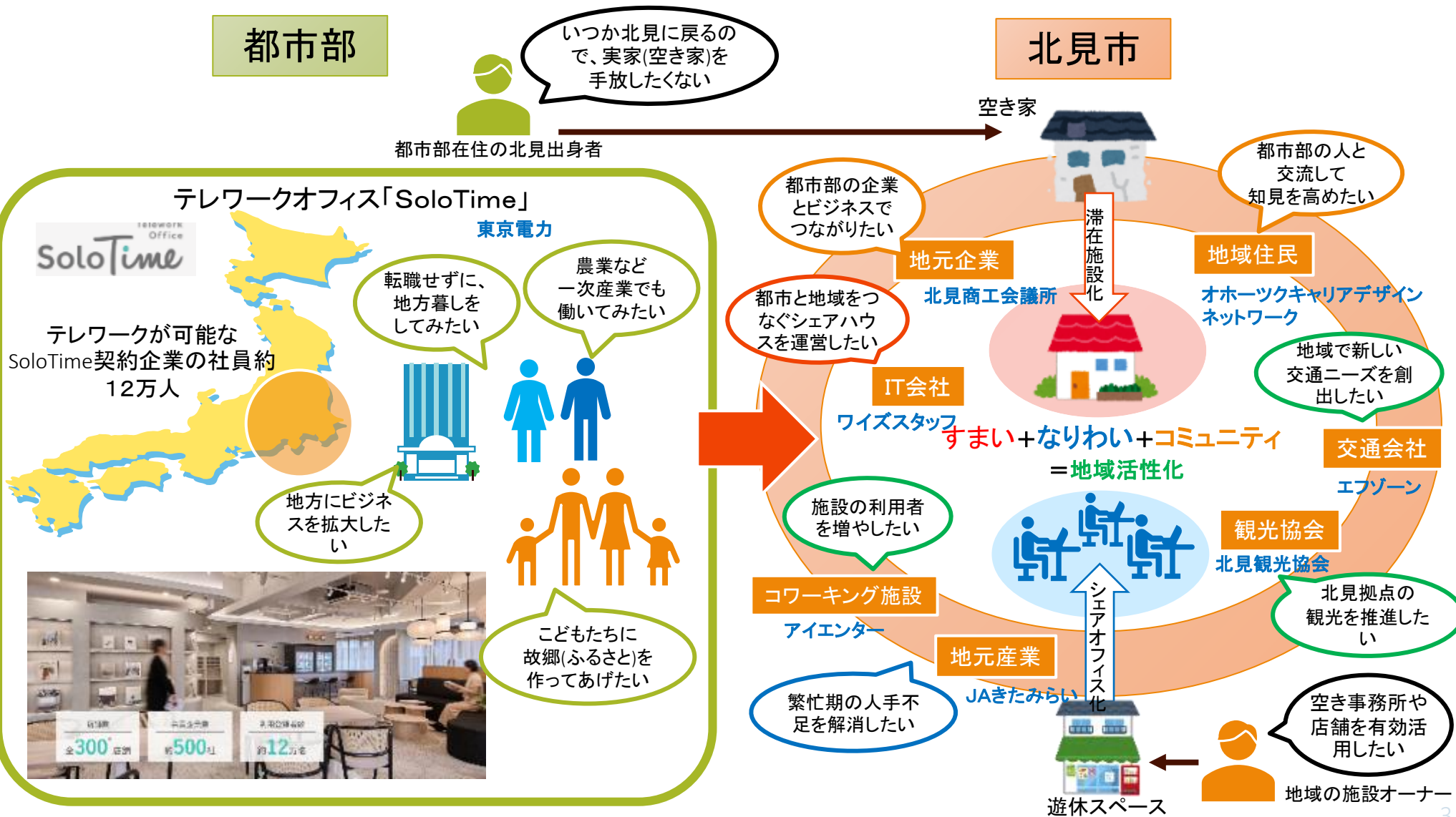
- 公共交通機関の便も利用者も少ない
- 航空運賃が高い(ハイシーズン)
- 慢性的なタクシー不足

公共交通機関の便が悪く、自家用車が中心。長期滞在は、レンタカーなどのコストが高い



「交通」と「すまい」の課題を乗り越えれば、
北見市は二地域居住先として最適！

現状の課題を解決できる「二地域居住」の受け入れ体制を構築するとともに、都市部から長期滞在可能なテレワーカーを誘致するモデル構築を目指します





本調査では、参加者の構成や年齢、ニーズに合わせた滞在施設として、住宅街の一軒家(空き家)と街中のテレワーク施設に隣接した宿泊施設(シングルルーム)を用意しました



KITAMI BASE




DOTO HOUSE
STAY LIKE A LOCAL

本調査では、参加者の構成や年齢、ニーズに合わせた仕事場(テレワークスペース)として、滞在施設内のテレワークルーム、街中のテレワーク施設、滞在施設近くのワークスペース(空きオフィス)用意しました



本調査では、子どもに都会のこども園では味わえない体験をと、自然豊かなこども園に協力いただきました



北見には四季折々の魅力がある中、本調査では秋から冬にかけての「旬」の食事、温泉を体験いただきました



4つの国立公園に日帰り観光

北見は、4つの国立公園に日帰りをする事ができます。本調査では秋から冬の観光を楽しんでいただきました



本調査では、3つのターゲットを設定し、それぞれに長期 (1週間以上)の滞在をしていただきました

農業体験者

9月15日～28日

コンサルティング会社 1名



企業チーム

12月1日～7日

メーカー 事業開発部6名
新事業のアイデア創出のチーム合宿



ファミリー

1月12日～22日



ファミリー

2月9日～16日



当初に設定したスケジュールについて、実施時期に若干の変更があるものの、ほぼ完了しています

業務工程計画

項目	業務工程								備考	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1. 受入体制の構築	協力団体・ミーティングの実施	← ●会議		●会議 ●見学会	●メール報告		●メール報告	●会議		3月報告会を実施予定
	実証プログラムの確定	←→								完了
	滞在施設の整備	←→	→							完了(随時、改善を実施)
	滞在期間中のリース手配	←→								完了
2. 広報・募集	ホームページ制作・情報発信	●公開	→ ●NHK	→ ●NHK		→ ●HP				実施中
	実証事業の広報(プレスリリース)	←→								完了(HP掲載)
	SoloTime会員向け参加者募集	←→				→				完了(10月~11月)
	参加者決定・要望確認	←→ 企業	←→ 家族	←→ 個人		←→ 企業		←→ 個人	←→ 家族	完了
3. 実証準備	参加者への情報提供 ガイダンスの実施	←→	←→		←→	←→				完了
	要望に応じた企画 (農業、企業、住民との交流)	←→	←→ ●農業体験企画		←→ ●意見交換会企画		←→			完了
	仕事環境、レンタカー、保育園等手配、情報提供	←→	←→				←→			完了
4. 実証	参加者への滞在サポート	←→ 企業	←→ 家族	←→ 個人		←→ 企業		←→ 個人		完了
	交流企画、企業マッチング実施支援	←→	←→ ●農業体験		←→ ●意見交換		←→			完了
	滞在中の情報発信	←→	←→ 個人		←→ 企業		←→			完了
5. 検証(PDCA)	実証振り返り・改善点反映		←→					→		実施中(随時改善)
6. 報告	感想、意見等まとめ・報告書作成				●中間報告	→ 中間報告			→ ●成果報告書提出	実施中

【取組1】地域の推進チームの構築

目的

将来的な「二地域居住等促進協議会」の設置を視野に入れ、「北見市二地域居住推進チーム」として、本調査事業に取り組む

課題

- 「推進チーム」として一体感をもっていただく必要がある

取組

- メーリングリストでの随時情報発信

進捗

- 滞在者の情報を事前に連絡
- 滞在施設の見学会を実施
- 2社追加

工夫

- 滞在施設の見学会では、リモートでのウェルカムを体験いただきいた

今後

- 情報発信頻度を高めていく
- 滞在者との交流機会を増やす
- 協力企業/団体を増やしていく

北見商工会議所

アイエンター

JAきたみらい

オホーツクキャリアデザインネットワーク

エフゾーン

北見観光協会

トヨタレンタリース北見

(野付牛自動車学校)

(金星ハイヤー)



ワイズスタッフ

事業を実施推進する中で、推進チームに追加したい企業・団体が発生



滞在施設の見学とリモートチェックイン体験



【取組2】テレワーク可能な企業・人の誘致

目的

「二地域居住」へつなげるためには、北見市での「生活」を体験いただくことが重要であり、長期滞在が可能なテレワーカーを募集する

課題

- 長期滞在はハードルが高いため、募集方法に工夫が必要となる

取組

- 東京を中心にテレワークスペースを運営するSolotimeの会員(約12万人)に募集をかける

進捗

- チラシを作成し、募集活動を実施
- 説明会の実施
- 企業1社、家族2組の参加決定

工夫

- 長期滞在を促すため、1週間または2週間の滞在を基本として募集

今後

- 「テレワークによる長期滞在」を基軸にして、北見市独自の二地域居住を推進する



Solotime会員へ案内



オンライン説明会への参加

↓
申込 3組



【取組3】広域保育の活用

目的

二地域居住や移住につなげるために、子どもが就学前の家族をターゲットとする。滞在コストを下げるために既存の「保育の広域利用」を活用する

課題

- 広域利用制度の本来の目的と異なるため、活用できるかどうかは自治体の判断となる

取組

- 保育園の子どもがいる家族の滞在を推進

進捗

- 3家族(他事業1件含む)の滞在
- 家族の居住自治体3件とも利用不可の連絡あり

工夫

- 今年度は調査費用にて、保育料を負担

今後

- 拒否理由を整備して報告する

保育の広域利用

児童の居住地以外の市区町村にある保育所や認定こども園などを利用できる制度。市区町村間で受委託による調整を行い、希望する施設を利用することが可能

居住自治体で「退園」
滞在自治体で「入園」
手続き

滞在自治体で
通園(費用なし)

滞在自治体で「退園」
居住自治体で「入園」
手続き

「保育の広域利用」ができない理由(送り出す自治体側)

- 待機児童がいるので再入園は不公平になる
- 入園は1か月単位で途中入園ができない。
一度退園すると翌月まで入園不可
- 入園の申込が3か月前まで。
直前では再入園ができない





【取組4】滞在情報の提供方法

目的

北見市に長期滞在するため、さまざまな生活情報を提供する必要がある。必要情報の整備と提供方法を確立する

課題

- 観光だけでなく、生活情報を適切に提供する必要があります

取組

- 滞在施設のサイトを構築する(公開)
- 参加決定者には、詳細情報(非公開)を提供する

進捗

- 滞在施設サイトを公開
- 生活のための詳細情報を限定公開

工夫

- 生成AIとBOTを活用して、自然言語で質問対応できるサービスを試験運用予定

今後

- 必要な生活情報を整備する
- 情報をAIに学習させるしくみを検討

滞在施設に設置したアレクサで地域情報を

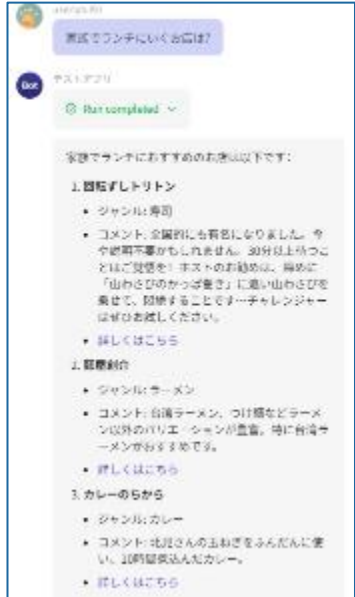
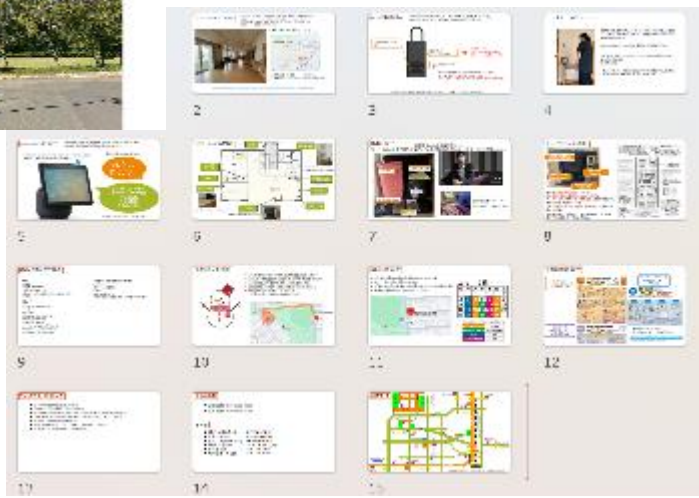
アレクサおはよう

おはようございます
今日の最低気温はマイナス10度。
燃えるゴミの日です

DOTO HOUSE ハウスマニュアル(多バ・ジョン)
Welcome to DOTO HOUSE
BEAT LIFE & LOOK



ハウスマニュアルを作成
シーズンに合わせて随時更新



生成AIとBOTを活用して
自動応答に取り組み

【取組5】長期滞在者との連絡方法

目的

長期滞在中に頻繁に連絡する必要性が発生する。スマートフォンで個人情報に配慮しつつ、迅速に連絡がとれ、共有する方法を検討する。

課題

- 滞在者の個人情報(SNS)を共有することに問題はないか

取組

- 滞在前に3つの方法を提案し、本人希望を優先する

進捗

- 滞在者の希望に合わせて、連絡方法を用意

工夫

- 滞在前にアンケートで希望をとることで「本人了承」もらう

今後

- 個人SNSを利用した場合、滞在終了後、削除する等のルールを決める必要がある



調査項目

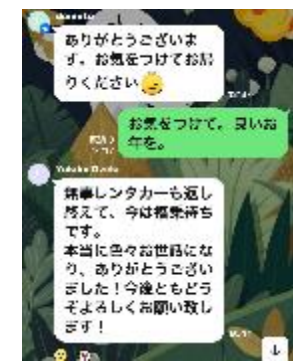
- 個人で利用済
- 複数人で参加可能
- 運営側も複数で参加可能
- 一般の人には非公開
- メッセージの「通知」あり
- 個人情報を非取得



LINEのオープンチャット



非公開グループを利用することで条件をクリア



目的

長期滞在中に、「仕事」と「観光」のみでは、コミュニティの形成につながりにくい。滞在者が希望する企画を提供することで、定期的な滞在や移住につなげる人的ネットワークを作る

課題

- 滞在者と地域のマッチング方法がない

取組

- 地域のネットワークメンバーの「顔」が見えるパンフ制作

進捗

- 地域のスポーツクラブや地域FMなど、地域人材と交流
- 推進チームのOCDNとディスカッションを実施

工夫

- 事前に情報を提供し、推進チームで適した企業/団体と交渉した

今後

- 事前のヒアリングを丁寧を実施し、マッチングしていく
今回は、農業体験、ラジオ出演、企業の商品ヒアリングを実施



企業チームの新事業(ターゲットが女性)に関わる意見交換を実施。

働く女性のネットワーク
OCDNの「顔」が見える
パンフを制作



滞在中12日間で69人の人と交流

目的

北見市で生活をするには、車での移動が中心となる。ペーパードライバーや、免許を持っていない人に対して、公共交通機関を活用した観光や生活をサポートする

課題

- 車を運転できない滞在者の生活をどうサポートするか

取組

- レンタル自転車を手配
- 広域観光について、バスや期間限定のサービス等の活用を提案

進捗

- 三連休を活用し、公共交通機関のみで、サロマ湖、網走、知床を観光

工夫

- 旅程を見せていただき、地元目線でアドバイスを実施
- 距離感覚が無いため発生した無駄な移動を修正

今後

- 公共交通機関の情報を早めにキャッチして提供する



到着日に駅自転車をレンタル



Google マップでルートを提案

公共交通機関とハイヤーを組み合わせた観光ルーツを提案

地域で実証実験中の「どこバス」を利用



目的

北見市では冬の期間が長く、また雪道や凍った道路状態で運転する必要が発生する。安全に北見での生活をさせていただくための対策が必要となる。

課題

- 冬道での運転は地元民でも大変。リスクをどう軽減するか

取組

- 事前に冬道の危険度を伝達
- 冬道になれていない人に、研修をおすすめ

進捗

- 地元の自動車学校で、「冬道講習」ができないか交渉
- 可能との返答のため、今後実施予定

工夫

- 冬期間は、レンタカーの利用を最小限で提案(空港・北見間はバス等)
- 冬道講習を受けてもらう

今後

- 冬道講習の費用を、レンタカーの割引で賄うなど、滞在者の負担の軽減方法を検討



地域の自動車学校で「冬道講習」を受講

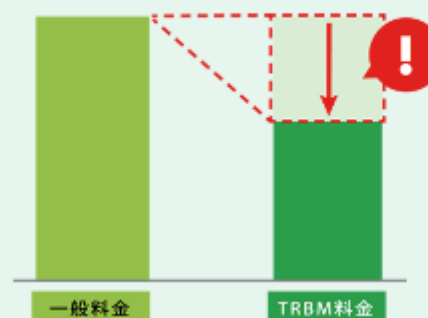


TOYOTA Rent a Car

法人向け会員案内

出張先の移動や作業の運営など、ビジネスとレンタカーはベストマッチ！トヨタレンタカーの法人会員になると、特別料金でお得にご利用いただけます。法人会員は、お客様の車種や利用状況に応じ、選べる2種類（TRBM・BCC）をご用意しています。なお、長期利用の多い法人様にはリースもご用意いたします。

TRBMだけの特別料金！保険・補償制度やその他の特典もいっぱいでお得！



特典分で「冬道講習」料金をカバー

目的

北見市内には、ビジネスホテル等が多いが「長期滞在」に適した宿泊施設がほとんどない。空き家を「長期滞在施設」として活用するための課題や対策を調査する

課題

- 滞在施設(DOTO HOUSE)が、現状では営業ができない第2種低層住居専用地域である

取組

- 旅館業が可能か調査
- 民泊が可能か調査

進捗

- 旅館業は特定居住促進計画が策定された場合は、可能性はある
- 民泊が可能だが平日営業ができない

工夫

- 北見市に北海道と協議していただく必要がある

今後

- 民泊営業が「休日しかできない」状況では、「長期滞在施設」として成り立たない状況の改善を提案していく

	住宅宿泊事業法 (民泊新法)	旅館業法 (簡易宿所)	国家戦略特区法 (特定立地による部分)
所管省庁	国土交通省 厚生労働省 観光庁	厚生労働省	内閣府 (厚生労働省)
許認可等	届出	許可	認定
住居地域での営業	可能 条例により制限されている場合あり	不可	可能
営業日数の制限	年間提供日数 180 日以内(条例で実施期間の制限が可能)	制限なし	2泊3日以上の滞在が条件
宿泊者名簿の作成・保存義務	あり	あり	あり
玄関標榜の設置義務	なし	なし	なし
最低床面積、最低床面積の確保	最低床面積あり (3.3㎡/人)	最低床面積あり	原則 25㎡以上/室
衛生措置	換気、除湿、清潔等の措置、定期的な清掃等	換気、採光、採明、防湿、清潔等の措置	換気、採光、採明、防湿、清潔等の措置、使用の開始時に清潔な居室の提供
非常用照明等の安全確保の措置義務	あり 家主同居で宿泊室の面積が小さい場合は不要	あり	あり(6泊7日以上の滞在期間の施設の場合は不要)
消防用設備等の設置	あり 家主同居で宿泊室の面積が小さい場合は不要	あり	あり
近隣住民とのトラブル防止措置	必要(宿泊者への説明義務、苦情対応の確保)	不要	必要
不在時の管理業者への委託義務	規定あり	規定なし	規定なし
立地規制	なし(住宅型)	あり	区域計画に定める

用途地域	
	第1種低層住居専用地域
	第2種低層住居専用地域
	第1種中高層住居専用地域
	第2種中高層住居専用地域
	第1種住居地域
	第2種住居地域



目的

本調査事業を北見市が実施していることを、北見市民や北海道民に広報することで、地域に「二地域居住」の必要性を認識していただくことができる

課題

- 二地域居住推進が北見市の移住や経済活性化に資することを伝える

取組

- 実施内容を頻繁にメディアに提供する

進捗

- 国交省の視察をNHKで放送(北海道)
- 農業体験者の滞在の様子がNHKで放送(全国)

工夫

- 単にリリースを送信するだけでなく、直接訪問をして事業の重要性を伝える

今後

- 引き続きメディアへの情報提供とネットワーク作りを実施する



テレワークを活用して都市と地方を行き来しながら生活する「二地域居住」を促進するための実証調査で東京から北見市に滞在している人が白菜の収穫作業を体験しました。

国土交通省は二地域居住を促進するための実証調査として、北見市



二地域居住推進のために(まとめ)

地域におけるチームの推進

- 一企業・団体では、二地域居住の受け入れ体制を構築するのは難しい。**地域において推進するチームが重要**。また、ニーズに応じて、チーム体制も進化させる必要がある

長期滞在による生活体験

- 二地域居住へつなげるためには、長期滞在することが重要。**その地域の生活を体験することで、レポート訪問や移住につなげることができる**

二地域居住におけるテレワーク

- 長期滞在のためには、**テレワークが可能な企業・その社員へのアプローチ**が効果的である

地域との交流機会

- 地域住民や企業との**交流機会を作る**ことで、レポート訪問につながる

二地域を推進するための規制緩和

- 二地域居住を推進するためには、地域の空き家活用が有効だが、民泊等の営業ができない場合の規制緩和が必要。自治体が施設を所有するのではなく、**空き家の持ち主がビジネスとして取り組めるしくみの構築**が期待される

長期利用を想定した滞在施設

- 長期滞在では、宿泊施設の寝具や広さ、備品が重要。**二地域居住のための滞在施設整備**が求められる

滞在前・中・後のフォロー

- 二地域居住を想定する場合、**滞从前からオンラインでヒアリング**をすることで満足度の高い滞在が可能。滞在中は(干渉しすぎない適度な)やりとりが重要。

地域特性のカバーと共有

- 地域や季節によってさまざまな課題**(今回は、冬道運転等)があり、解決策を共有していく必要がある

ターゲットの設定

- 今回は「農業」「企業」「家族」の3つを実施したが、それぞれのニーズが異なっていた。二地域居住へつなげるには、**ターゲットを絞って広報やサポート**をする必要がある

地域住民への情報発信

- 地域住民の理解が、今後の二地域居住推進の要となる。好事例を作り、**地域への情報発信を積極的に**する必要がある